

# 異文化に対し理解を深めるとともに、子ども一人ひとりが 自分の意志を国語で明確に表現する能力を育てる

～在外教育施設における異文化理解及び国語力向上を目指した取り組み～

前アブダビ日本人学校 教頭

徳島県徳島市加茂名中学校 教頭 吉田 光宏

キーワード：在外教育施設

## 1 研究の目的・特色 (H28)

アブダビ日本人学校は、12年前に国民の教育に熱心なアブダビのムハンマド皇太子から日本大使館に日本人学校・幼稚園でUAE (United Arab Emirates: アラブ首長国連邦) 国民師弟を受け入れてもらいたいとの要請があり、2016年12月現在、UAE 国民師弟が小学校で11名、中学校で4名、併設の幼稚園で10名が、日本人子弟と一緒に日本の教科書を使用し、日本語で仲良く元気に学んでいる。そこで、このような特殊な環境のもとで「異文化に対する理解を深めるとともに、子ども一人ひとりが自分の意志を国語で明確に表現する能力を育てる」を研究主題にして、「国語科授業」「UAE (アラブ人) としてのアイデンティティを大切にするイベント」を通して研究を進めたいと考えた。

また、将来的にはUAE 国民師弟も日本の高等学校、大学への留学を視野に入れており、日本人子弟同様にUAE 国民師弟も、国内で求められている子どもたち一人ひとりの国語力およびそれに伴う表現力に焦点を当てなければならぬと考える。そのため、国語科だけでなく、学校の教育活動全般にわたって、子どもたちの国語力の向上を図っていくと同時に、日本人子弟とUAE 国民子弟相互の異文化に対する理解を深めたいと考えた。

## 2 実施内容

- (1) 国際化が進展する中であって、広い視野とともに、異文化に対する理解や、異なる文化を持つ人々と共に協調して生きていく態度などの育成の実践
- (2) それぞれ日本とUAE (アラブ人) のアイデンティティを大切にすることを、協力し行う中で、異文化理解を深める実践
- (3) 国語力向上を求めた「個に応じた主体的な学習」の研究、実践
- (4) 「話す、聞く、書く、読む」能力の基礎・基本の追求
- (5) 国語力向上のための横断的・総合的なカリキュラムの編成
- (6) 在外日本人学校における国語力向上を目指した教育課程の編成及び実践  
(読書の時間、作文の時間、学年発表、総合的な学習の時間など)
- (7) 国際コミュニケーション能力育成のための基礎となる国語力の研究
- (8) 授業研究会の実施 (各教科において国語で適切に表現する能力の育成) 研究の評価・改善

## 3 交流学習の取り組み紹介

アブダビ日本人学校では、

- (1) 国籍の異なる児童生徒との友好の輪を広げる。
- (2) お互いの文化の違い、ものの見方や考え方の違いがあることを知り、そのことを認め、相手の価値観を尊重しようとする態度を育てる。
- (3) 日本独自の文化や日本の良いところを紹介し、日本の良さを理解してもらうように努める。
- (4) 現地校の学校設備や教育現場の様子を見学することにより、日本の学校との違いを発見し、国際的な視野を広げる。

以上4つのねらいを掲げ、インターナショナル校（The British School Al Khubairat「以後BSAKと表記」）との交流を行っている。交流活動計画としては、6月に訪問・来校の2回、10月11月に訪問・来校の2回、計4回である。第2回と第4回の日本人学校へ来校しての交流では、BSAKの子どもたちに日本文化を紹介しながらの交流となる。

中学部では、2015（平成27）年度は第2回BSAK来校時には、「どら焼き作り」と「めんこ遊び」を通じた交流を行った。どら焼き作りでは、あんこ作りに始まり、生地を焼き、あんこを挟みながらの交流で、うまく説明ができなくても、作業工程を通して交流がもたれた。

第4回BSAK来校時には、「うどん作り」を通して交流を行い、うどんの説明や、作り方を英語でジェスチャーを交えて行った。

また、2016（平成28）年度は、BSAK来校時には中学部一年は「白玉」、中学部二年は「焼きおにぎり」作りを通して、交流を深めた。

#### 4 フラッグデー・ナショナルデー（UAE 国旗に敬意を払う日・UAE 建国記念日）イベントを通して

日本人子弟にとっては、UAE 国民子弟と一緒に学校生活を送る中で、ムスリムの方への配慮や接し方、UAE 文化や歴史、生活習慣などを、日本人学校内で自然に学ぶことができる。

ここで紹介するのは、UAE（アラブ人）としてのアイデンティティを大切にするイベントに対して、UAE 国民子弟と日本人子弟が協力して行うことにより、自然と学ぶことができる「日本とUAE（アラブ人）」の相互理解の取り組みを紹介する。

フラッグデー・ナショナルデーイベントは、ADEC（アブダビ教育評議会）から、必ず各学校で行わなければならないUAE 国内のイベントとなっている。このようなイベントに対して、ADEC（アブダビ教育評議会）からの派遣の先生（UAE 国民子弟に対して、アラビア語・イスラム教・地理歴史のみ、授業を行っている）が中心となりUAE 国民子弟を指導していた。このイベントでは、UAEの歴史や習慣、文化などを紹介し、終了後には、UAE 保護者がUAEの郷土料理をふるまってくれていた。そのため、日本人子弟はそのイベントに招待され、見るという立場であった。しかし、昨年度よりUAE 国民子弟の中に日本人子弟も加わり、

○多様な文化や生活習慣、価値観などの違いを認識し相手の立場にたって考える態度の育成。

○相互の歴史や伝統を理解し、尊重し合う態度の育成。

という目的の基、共にイベントに参加することで、イベントを盛り上げ現地理解を深める取り組みとした。

#### 5 成果と課題

##### 国語科等、授業を通して

「音声言語による表現力。その際、自分の考えをまずもち、相手の目的、場面等を踏まえつつ論理的に述べる能力を高める」ということは、中学の国語教室で育成すべき「話すこと・聞くこと」の基礎・基本となっている。

では、いかに上記のような基礎基本を育成するか？

私の考えを、以下で述べる。

- (1) まず、子どもたちが、ある課題に対して情報をもつということである。それも出来る限り多くの情報を得ると事が大切である。
- (2) その次に、その情報を自分の考えと合わせて、どのように活用するかである。ようするにその情報から、自分の考えを作り上げることである。
- (3) また、その情報に満足せずに、自分の考えを相手に分かってもらうために、また、新たな情報を得ようと努めることも大切である。そうすることにより、自分の考えがより確固たるものとなっていく。そうして、自分の考えを誰かに伝えずにはいられなくなってくるのである。

(4) そして、その場（ディベート等・討論会）を教師側が設定するのである。そうすることにより子どもたちは、目標意識が出てくる。そして、子ども達はその目標の場に合わせ、自分の考えが相手に伝わるようにさまざまな工夫を考えるのである。

(5) あとは、本番となる。

本番までの過程が一番大切である。本番までの過程で、国語のいろんな力がつく場面がでてくる。これが教師側の一番のねらいである。しかし、子どもたちはそのようなことを意識せずに、知らず知らずのうちに、さまざまな力をつけることとなるのである。その後、本番となるのである。

本番では、子どもたちにたくさんの情報もたらされているので、心理的に誰かに言いたいという気持ちに満ちあふれて、本番を迎えることが出来るのである。あとは、その場のルールに従って、自分の考えを思う存分、わかりやすく伝えるのである。



今回の授業研究では、以上のように異なる、子ども側のねらいと、教師側のねらいの2つ（二重構造）で行い、少しでも教師側のねらいに近づけたい考える。

#### 交流学习を通して

成果と課題として、「子ども一人ひとりが自分の意思を国語で明確に表現する能力を育てる」ということを念頭に置き、交流事前学習がなされた。わかりやすく伝えるために、まずは日本語での確かなアドバイスがなされる言葉を考えた。その後、英語で伝える練習を行った。年4回から2回の交流を通して、明確に表現しようという取り組みがなされたが、交流自体、当日のみの交流であるため、交流の中身において、これからも検討の余地があるように思われた。

また、BSAK（ブリティッシュスクール）は、英国人が約20%、その他あらゆる国籍の子どもが在籍しているため、現地理解ということには至っていない。

#### フラッグデー・ナショナルデーイベントを通して

現地理解教育では、UAE 国民子弟が15名在籍しているということもあり、先に述べた通り、普段の学校生活の中でUAEの歴史や文化及び生活習慣等を、自然と学ぶことができている。その中で、自国の文化や生活習慣等を見直し、考えるきっかけとなればと考えている。できる限り、日本とUAEの長所短所を知り理解することも必要だが、長所を知り伸ばし、日本の良さを改めて理解するとともに、改善点に気づくことも重要だと考える。